

**環境基本計画（案）に関する  
パブリックコメントの実施結果について（報告）**

**1. パブリックコメントを実施した計画案**

坂出市環境基本計画（案）

**2. パブリックコメントの実施状況**

（1）意見募集期間

令和7年12月16日～令和8年1月15日

（2）意見の受付件数

2人 4件

**3. 意見の概要と市の考え方**

No.	意見の内容	意見に対する市の考え方
1	<p>1. 地域の基盤づくりの観点から見た舗装材選定について</p> <p>昨年度の人工土地西側工事および一昨年度の市民ホール前工事において、従来広く用いられてきた石材・コンクリート舗装ではなく、ウッドデッキが主要な舗装材として採用されている点について、以下の懸念がある。周辺地域には、約40年わたり大きな劣化が認められない石材・コンクリート舗装が現存しており、実績として高い耐久性が確認されている。一方、一般的にウッドデッキは、紫外線、雨水、温湿度変化の影響を受けやすく、耐用年数が相対的に短いとされている。実際、設置から間もない段階で変色等が確認されており、同程度の耐用年数が期待できるとは考え難い。このような状況から、将来的な補修・更新頻度の増加による維持管理費の増大が見込まれ、長期的な費用対効果（ライフサイクルコスト）の観点から合理性に疑問が残る。また、木材を使用すること自体が直ちに環境配慮やカーボンニュートラルに資するとは限らない。伐採、加工、輸送、防腐処理、将来的な廃棄までを含めたライフサイクル全体での環境負荷を検証せず、</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。おっしゃられるように、見た目やイメージだけでなく、耐久性、維持管理、環境負荷、将来世代への負担まで含めた総合的な判断が舗装材選定において重要です。</p> <p>今後はより一層、舗装材選定において総合的判断に努めてまいりたいと考えています。</p>

	<p>「木を並べたから環境に良い」と受け取られかねない施策は、環境政策の本質を矮小化するおそれがある。地域の基盤整備においては、見た目やイメージだけでなく、耐久性、維持管理、環境負荷、将来世代への負担まで含めた総合的な判断と、その説明が求められると考える。</p>	
2	<p>2. フードバンク活動の運用について 現在のフードバンク活動が、主に年1回実施される「まごころ便」に限定された利用形態となっている点について、実効性と公平性の観点から懸念がある。仮に公的には「必要に応じた支援」を掲げている一方で、実際の利用機会が限定的である場合、真に支援を必要とする人にとって利用しやすい制度とは言い難い。また、本年度からは受け取り時間が細かく指定され、かつ施設での受け取りが必須となるなど、生活困窮者や子育て世帯、就労状況が不安定な人にとってハードルが高い運用となっている。フードバンクは「実施していること」自体が目的ではなく、「必要な人に、必要な時に届くこと」が本来の趣旨である。利用実態や利用者の立場を踏まえ、より柔軟で利用しやすい仕組みへの改善を求める。</p>	<p>ご指摘の通り、フードバンクにおいて、必要な人に、必要な時に食品が届くため、より柔軟で利用しやすい仕組みとなることが重要だと考えます。</p> <p>坂出市においても令和6年度より、香川大学の学生と協力し、フードドライブという家庭で余っている食品を集め、フードバンクに寄付する活動を新たに開始し、少しでも利用機会を増やすよう努めています。</p> <p>いただいた貴重な意見を参考に、今後もより一層フードバンク活動が利用しやすい仕組みになるよう努めてまいります。</p>
3	<p>3. 坂出市におけるゼロカーボン施策について 給水設備の位置づけについて（市民ホール前などに設置） ゼロカーボン施策の一環として設置されている給水設備について カーボン削減の実効性および施策との整合性の観点から疑問がある。本設備は、水道水を温度管理して供給するものであり、製造、輸送、設置、稼働、将来的な廃棄までを含めたライフサイクル全体での温室効果ガス排出量を考慮した場合、どの程度のカーボン削減効果が見込まれているのかが明確ではない。外装を含む専用設備を新たに製作・設置すること自体が一定の環境負荷を伴う以上、既存の水道インフラを活用する方法と比較して、実質的にカ</p>	<p>設置している給水機については、ペットボトル等の使い捨てプラスチックの削減に向け、マイボトルの携帯などにより地域全体の環境意識を醸成していくことを目的に設置しているものです。</p> <p>あくまで、市民が環境に対する意識を持つきっかけづくりにはなっており、それにより、新たなゼロカーボンの取組を一人ひとりが進めていけるよう行動変容を促すためのものです。</p> <p>水質については、屋内給水機については定期的な浄水材の入れ替えをしており、屋外型に関しても水質検査を行い問題ない結果が得られています。</p>

	<p>ーボン排出削減に寄与しているのかについて、客観的な検証と説明が求められる。また、利用者が水質に違和感を覚え、マイボトル利用が進まない場合、想定されている行動変容が生じず、結果としてゼロカーボン施策としての効果が十分に発揮されない可能性がある。ゼロカーボンを掲げる施策である以上、イメージや象徴性にとどまらず、ライフサイクル全体を通じた実質的なカーボン削減効果に基づく事業設計と、その根拠の明示が不可欠であると考える。</p>	
4	<p>「環境行政の確立のため、当該計画の都市計画に対する明確な反映を求める」  現況：府中湖は綾川水系域で、これまでの水質測定値の月次平均は 2, 4, 6, 8 月で類型の基準を超過している。10, 12 月は低位であるため、年次の平均処理によって、BOD 値は穏やかな傾向が続いていた。しかし近年は、年次においても河川類型基準を上まわる傾向である。府中湖の貯水の循環は数年に一度で、河川水の統計処理と同列にできない。水質汚濁が進行している中、毎月の測定さらに日次データ確保によって、対策手法を解析する事が欠かせない。  影響：府中湖はカヌーやボート競技また小中学校生の体験会などで年間を通して使用されている。地域のイベントも恒例となっている。これらの参加者の呼吸器系、消化器系から健康が損なわれることを懸念する。また飲料水、灌漑用水として下流域に流出するのを防止する必要がある。  課題：府中湖の特性と現況を香川県環境管理課は認識しているが、河川管理者は洪水対策で手一杯、水道企業団は貯水確保に躍起で当事者の不在を露呈している。市側も建設経済部門に主務課はない。隣接市町との連携は綾川水系の水環境保全協議会からの瓦版発行のみである。環境基本計画が行政サービスの機能に活かせる仕組みが不足している。この</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今回問い合わせいただいた府中湖におきましては、管理者が香川県広域水道企業団となっております。その上で、香川県広域水道企業団に今後の府中湖の水質の改善策について問い合わせたところ、植生による水質浄化機能を持った浮島の設置による水質浄化実験を行っており、今後も引き続き、水質検査を実施し、水質浄化効果の検証を継続していくとのことです。  本市におきましては、坂出市環境基本計画の中で、水質汚濁に関し、関係機関と協議、連携していくことを既に記載しているため、いただいた貴重な意見を踏まえながら、より関係機関と連携を強め、対応してまいりたいと考えています。</p>

	機能の確保によって「行政の役割」に掲げる地域と一体となった取り組みが可能となる。	
--	--	--